

# 日銀の視点

久しぶりに学校が再開し、通学路には児童生徒の元気な姿が戻ってきた。窓を開放した校舎からは笑い声も聞こえてくる。学校が街の活力としても重要な役割を果たしていることをあらためて実感した。通学路で先生が掲げていたプラカードには身体的距離の確保を呼び掛けるメッセージ。感染症対策を講じながらの学校運営に先生方の苦勞も絶えないと聞く。学校関係者の努力に深く感謝したい。コ

日銀水戸事務所長 鈴木 直行

## ピンチに備える教育を

コロナ禍は私たちの生活にもさまざまな影響を及ぼし得る。そこで経済活動のピンチへの備えや対応につながり得る学びについて少し考えたい。

一つ目は児童生徒や学生向けの金融教育。金融というと、お金の知識や貯蓄の大切さ、お金の使い方、お金の価値などについて学ぶことが一般的である。しかし、コロナ禍におけるお金の付き合い方、お金の活用やお金を借りる場合の注意点なども学べる。このところ専門家からは、今後経済環境が悪化した場合に、多額の借金を抱えて返済に、多額の借金を抱えて返済困難に陥る、多重債務問題が再燃する可能性を懸念する声も聞かれる。教材では多重債務に陥らないためには、①将来の収入見通しを慎重に考え、無理なく返済できる計画が立たないお金は借りない②高金利の借金は安易に利用しない③借金返済のための借金をせざるを得なくなったら、すぐに弁護士会などの相談窓口にご相談するといったことが重要としている。

二つ目の学びは社会人向けの教育(学び直し)。当地では、地元プロスポーツ選手等の現役引退後のセカンドキャリア形成を支援する奨学金の支給など各大学が社会人教育にも注力し、地域を支える人材を育成している。今後、新しい生活様式が定着すると、期待されるサービスや働き方が変化する可能性もあろう。こうした変化への適応を支援する教育機会の提供は少し長い目で見たコロナ対応として重要になるのではないかと考えている。

(今回は7月11日掲載)

専門的でとっつきにくい印象があるかもしれない。もっとも県金融広報委員会(会長は県知事、事務局は日銀水戸事務所)から金融・金銭教育研究校の委嘱を受けた学校などでは、生活のさまざまな場面

の値段や栄養価を調査し、限られた収入から栄養価の高い食事を取る方法も学ぶ。

また、大学生など向けの金融広報中央委員会の教材では人生のさまざまなリスクに備えた貯蓄、社会保険制度、民

間保険の活用やお金を借りる場合の注意点なども学べる。このところ専門家からは、今後経済環境が悪化した場合に、多額の借金を抱えて返済困難に陥る、多重債務問題が再燃する可能性を懸念する声も聞かれる。教材では多重債務に陥らないためには、①将来の

収入見通しを慎重に考え、無理なく返済できる計画が立たないお金は借りない②高金利の借金は安易に利用しない③借金返済のための借金をせざるを得なくなったら、すぐに弁護士会などの相談窓口にご相談するといったことが重要としている。